【切手デザイン】

2016 年 1 月 10 日（日）から NHK 大河ドラマ「真田丸」が放映される予定であり、地元上田市は念願の放映に盛り上がっています。大河ドラマの公式商品として、真田氏ゆかりの地である上田市内の名跡を題材としたフレーム切手が完成しました。

【台紙】

（表面）

信州上田
真田氏の郷・上田
大河ドラマ
真田丸
撮影：正田 真弘

（裏面）

真田氏の郷・上田
御屋敷公園つつじ
真田氏が上田城を築城する以前の居館跡で、地元では「御屋敷」と呼ばれ親しまれている。現在は「御屋敷公園」として整備され、つつじの名所として知られている。
上田城東虎口櫓門
虎口とは城の通路の出口という意味で、南櫓、北櫓はすでに移築復元されていたが、城門は平成6年に復元され、東櫓門としてすべて完成した。
真田幸村公像
上田駅前の広場にある上田築城400年を記念して建立された幸村の騎馬像。幸村が上田城にいたのは青年期であったため像は若武者の姿をしている。
砥石城跡
武田信玄が攻道を強いられた「砥石崩れ」(1550年)で知られる。智将武田軍下の真田幸隆が乗っ取り、武田氏滅亡後、真田昌幸が上田城を築くまで居城していたといわれ、上田城の本丸からは東門の北東方向に砥石城が眺望できる。砥石城は、上田城築城後も、上田盆地の北の守りとして機能していた。
山家神社
四阿山の麓上に奥宮をおき、山岳信仰、水分(みくまり)の神として尊ばれ、真田一族の住み歴代の上田城主にもあつく崇敬された。
信綱寺
天正3年、真田信綱・昌輝は長篠の合戦で討ち死に後、学石越にあった大伯山打越寺に葬られた。その後寺は享保2年現在地に移築され、大伯山信綱寺と称せられた寺院である。信綱と昌輝が眠る。
真田石
城内一の大石(長径3m)。真田信之公の松代移封のとき持ち去ろうとしたが、不動であったとの伝説をもつ。この真田石を始めとして、上田城の石垣の石材の大部分は市街地北方、太郎山産の緑色凝灰岩。
真田神社
智将 真田昌幸公・幸村公を始め仙石家、松平家の歴代城主を祀る神社。
信州真田鉄砲隊
上田真田まつりは真田鉄砲隊の勇壮な演武に始まり、真田幸村、伝説のヒーロー「十勇士」などに扮した300人以上の武者行列が市内中心部を練り歩く。
長谷寺
真田幸隆が開基した真田氏の菩提寺。境内には幸隆夫妻と昌幸の墓がある。六文銭が刻まれた石門や、これを覆うように咲くシダレザクラも見どころ。
真田氏系図
真田幸隆
高勝
信尹(昌忠)
昌幸
昌輝
信綱
昌親
信勝
竹林院(大会寺殿の側室)
信繁(幸村)
村松殿
信幸(信之)
小松姫(本多忠勝の娘)
大八
大助
信吉
信重
信政
真田氏三代略
片田舎の土豪に過ぎなかった真田氏は真田幸隆が武田信玄に仕えて頭角を現し、難攻不落の砥石城を攻略、数々のめざましい戦功をたてて、東信濃と上州(今の群馬県)にまで勢力を伸ばしました。幸隆のあとの信綱・昌輝兄弟が長篠の戦いで戦死、急きょ三男の昌幸が家督を継ぎます。武田家が滅亡した後は、わずか一年の間に織田、北条、徳川と情勢に応じ主君を変えるなど、巧みな外交戦術により領土を拡大。一万で上田城を築くなど、戦国大名としての地位を不動のものとしていきます。上州の真田領を巡って、徳川家との間に合戦がおこった時は、わずか二千で八千の敵を打ち破り、天下にその武名を知らしめました。豊臣秀吉亡き後、天下の覇者を決める関ヶ原の戦いでは、昌幸と次男の幸村が西軍に、長男の信幸が徳川方に別れて戦うことになり、昌幸父子は三万八千の大軍を上田城で迎え撃ちます。敵を散々に悩ませますが、西軍敗北により、紀州(今の和歌山県)の九度山へ流されました。昌幸はその地で没しますが、幸村は、大坂城へ入城。秀吉の遺児秀頼を守り立てて、大坂夏の陣では、家康の本陣へ切り込みますが、衆寡敵せず、戦場の露と消えました。その後の真田家は信之により、家名を存続し、松代への移封となりますが、明治まで十代に渡って続き真田十万石として栄えました。